



2学期を振り返って

早いもので、明日で2学期が終わろうとしています。2学期は、野外活動、修学旅行、学習発表会、小学校球技大会など、様々な行事があり、いろいろな場面で子どもたちが活躍する姿が見られました。明後日から冬休みですが、健康と安全に気を付け、よい年をお迎えください。そして、子どもたちが元気な笑顔で、3学期の始業式に登校することを願っています。



クリスマスコンサート

12月2日(土)に金管バンド部が、市が洞児童館のクリスマスコンサートに出演しました。「デイ・ドリーム・ビリーバー」と、「Under the Sea」の2曲を演奏しました。全員がサンタの帽子をかぶり、クリスマスムードが漂うとても素晴らしい時間を演出していました。



市が洞小のハローワーク

9・11月に引き続き、今年度の開校10周年イベントの一環で、「市が洞小のハローワーク」の3回目を、12月11日(月)の朝会時に行いました。講師として、本校出身で、名古屋グランパスエイトに所属している深堀 隼平選手に来ていただきました。サッカー選手になったきっかけ、今後の目標など、多くのことを話していただきました。子どもたちにとってよい機会となりました。当日の詳細い内容につきましては、名古屋グランパスエイトの公式ホームページに掲載されていますので、そちらもご覧ください。



あいさつ運動の輪が広がる

最近、本校でのあいさつ運動に変化が見られます。それは、朝の登校時に児童会役員、あいさつ委員だけでなく、多くのボランティアの子どもが参加して、朝のあいさつを一緒にしています。ボランティアは高学年を中心に、低学年の子どもも参加しています。その効果で、朝のあいさつがとても大きな声となり、多くの人ができるようになってきて、朝の明るい雰囲気一日が始まるようになってきています。ぜひ家庭におかれましても、お子様の様子で変化が見られるか見てください。



人権週間

12月4日（月）～10日（日）の人権週間にあわせて、4日（月）の朝会で校長が人権講話をしました。内容は、キャロル・マックラウド作「しあわせのバケツ」の絵本を読み、自分のもっている幸せのバケツについて考えさせました。この講話を通して、一人一人が多くの人々のバケツを幸せでいっぱいにしてほしいことを願っています。ご家庭でも一度お子様と「しあわせのバケツ」について話してみてください。



本のあらすじ

世界中の誰もが持っている「しあわせのバケツ」。見えないけれどみんなが持っている。なぜ、「しあわせのバケツ」を持っているのか？それは、みんなのよい心やよい気持ちを入れておくためである。バケツがいっぱいになると、とっても幸せな気持ちになれる。でも、バケツが空っぽになると、悲しく、そして寂しくなる。バケツを幸せでいっぱいにする人は、優しい言葉を言ったり、よい行いができる心優しい人である。あなたが誰かのバケツを幸せでいっぱいになると、自分のバケツもいっぱいになる。人を幸せにすると、自分も幸せになれる。

ふかしいもの会

12月4日（月）に、10月末に収穫したサツマイモをふかして食べました。地域の方が8名見え、泥の付いたサツマイモを子どもたちが一つ一つ洗い、それを蒸し器に入れて蒸しました。できたサツマイモを教室にもっていき、一人ずつ分けてもらい食べました。サツマイモはとてもほかほかで、とても甘みがあり、子どもたちは、とてもうれしそうに食べていました。最後にお礼の手紙を地域の方に渡しました。6月の苗植えから本日まで、地域の方に大変お世話になりました。ありがとうございました。



芸術鑑賞会

12月19日（火）に、「劇団うりんこ」による「名探偵！山田コタロウ」を鑑賞しました。内容がとてもおもしろく、笑いと興奮に満ちあふれていました。子どもたちにとって、身近に演劇にふれるよい機会となりました。



お知らせとお願い

- 先日は、学校教育評価への協力をしていただき、ありがとうございました。結果につきましては、3学期にお伝えします。
- 寒くなってきて、ポケットに手を入れて歩く子が目立ちます。寒い時は、手袋を着用するよう勧めています。ご家庭でも声掛けをお願いします。